

パーキンソン病の歩行障害に対する鍼治療の効果について

福田 晋平, 江川 雅人, 栗山 長門, 今西 二郎, 片山 憲史

保健・老年鍼灸学講座

【目的】パーキンソン病（以下、PD）の歩行障害に対する鍼治療の効果について、携帯型歩行計で評価した歩行機能を指標に検討した。

【方法】対象は薬物治療を受けているPD患者13例であった。鍼治療方法は、弁証論治による全身的治疗と下肢の筋血流や筋緊張の改善を目的に施術した。評価は、鍼治療施術前と直後に携帯型歩行計で歩行機能を記録した。また、自覚的な歩行状態はface scaleで記録した。

【結果】鍼治療の施術前後で、歩行の力強さを示す平均歩行加速度や、歩幅、歩行速度は有意に増加し（ $p < 0.05$ ）、歩行機能の改善を認めた。また、自覚的な歩行状態を示すFace scaleも有意に改善し、歩行機能との相関がみられた。

【考察】鍼治療の施術直後に、薬物治療を受けているPD患者に鍼治療を行い歩行機能と自覚的な歩行状態が改善したことは、PDの歩行障害に対して鍼治療が有用である可能性を示唆したものと考えられた。今後は、鍼治療による治療効果の継続性を検討する。なお、本研究はJSPS科研費30641998の助成を受けたものである。

小児鍼の効果

—アトピー性皮膚炎患者も含めた検討—

境野 昌行¹⁾, 糸井 マナミ²⁾, 江川 雅人¹⁾

¹⁾ 保健・老年鍼灸学講座, ²⁾ 免疫・微生物学教室

【目的】小児鍼が健康状態と皮膚状態に及ぼす影響について検討した。【対象】1才から10才以下の小児10名（男児5名、女児5名、 4.7 ± 2.7 才）とした。その内、アトピー性皮膚炎（AD）患者は4名だった。【方法】対象を治療群7名と無治療群3名の2群にランダムに振り分け、1ヶ月間の介入を行った。小児鍼は、ローラー鍼（重量39g、鋼製のメッキ加工）を使用した。刺激の圧は心地よい程度とし、両前腕、両下腿、背部、腹部、後頸部に対して1回5分以内の治療を行い、週1~2回の頻度とした。【評価】介入前と介入終了時に評価を行った。項目は、①健康に及ぼす影響（10項目の質問表）、②皮膚の状態（テープストリッピングによる角層細胞の評価）、③PO-SCORAD（ADの重症度評価、対象者のみ）の3点とした。【結果】①治療群では「夜泣き」「便秘」「食欲」「キーキー声を出す」の4項目で、改善割合が無治療群を上回っていた。②角層細胞が重層剥離する割合は、無治療群で1名が減少したのに対し、治療群では4名の改善がみられた。③ADの重症度に関する数値に明らかな傾向は見られなかった。【結論】ローラー鍼治療は、表皮角化細胞のターンオーバーに影響を与える可能性が示された。今後、症例を重ねて検討する予定である。